

活 動 名	団 体 名	高校生環境ネットワーク広島	
	地 域	広島県広島市	
	代 表 者	代表 竹本 伸	
	支援金額	15万円	
高校生による環境教育・学習活動			

活動概要
本会は環境問題に関心を持つ高校生(主に広島市内)が学校をこえて連携し、地域の環境を学ぶことを目的に3年前にスタートしたネットワーク組織である。2010年度はこれまで学習してきたことを生かし、子どもが遊びながら地域の環境を学べるような「エコカルタ」の作成に取り組んだ。読み札の言葉は広島市及び近郊の高校生から募集したところ、5校の188名から400個以上の応募があった。 カルタを作成する上では、単なるゲームに終わらず環境の学習に役立つよう、次の点に配慮した。 ・小学校中学年以上の子どもが遊ぶことを念頭に置きわかりやすい言葉に配慮した。 ・絵札の文字はどこに文字があるのか分からないようになっていて、中には絵の中に隠れている場合もある。 ・とった札が正しいかどうかは裏に読み札の文字が書かれているので確認できる。 ・読み札の裏にはその言葉のキーワードと一口解説が付いている。 これらの特徴から、読み札の言葉を聞いてその内容を理解するとともに絵もしっかり見なければならないこと、読み手がゲームを進めながら一言簡単な説明を加えることで、参加者が知らず知らずのうちに環境問題への理解が進めることが出来るようなカルタとなった。 エコカルタは約300個作成し、市内の児童館及び留守家庭子ども会に配布した。 ◆実施時期 2010年9月～2011年3月 広島市内の公民館を利用 ◆参加人数 高校生 22名 各校指導者 3名 広島市地球温暖化対策地域協議会教育・学習ワーキンググループ 5名 参加総人員:30名



エコカルタ 絵札



エコカルタ 読み札



カルタ風景



集合写真

◆実施に伴う効果

高校生が自主的に環境問題に取り組む活動は、県内ではあまり例がなく、学校を超えて連携する事例は皆無と言っていいが、環境問題に関心を持っている生徒は少なくない。友人どおしではなかなか会話になりにくいこの環境問題について、関心のある生徒が集まって自由に議論したり、学校を超えた仲間が一つの目標に向かって取り組むことは、教育的に見ても大きな意義があったと考えている。また、テレビ(※1)で取り上げられることにより啓発面で意義があったばかりでなく、カルタを配布した広島市内の児童館や留守家庭子ども会では、楽しみながら自然に環境問題について学ぶことが出来ると大変好評であった。高校においても授業の中で利用された報告を受けたが、環境問題の章を終えた後にカルタを行ったところ生徒にも大変好評で環境問題に対する認識がより深まった、教育的効果の面でも大変意味のあるものだとの評価をいただいている。

※1 広島テレビ 2011年4月20日(水)「テレビ派」の「エコッ派」コーナー

◆苦労した点

学校内での活動であれば、クラブや生徒会といった組織を利用してメンバーを集めやすく放課後を利用して活動できるが、学校をこえた活動になると、メンバー募集一つとっても集めること自体もなかなか困難であり、活動する人数の想定がつかず、毎年スタートするまで大変気をもんでいる。今後は中核となるいくつかの学校が組織的に関わってもらえれば、もう少し安定した活動が可能になるのではないかと考えている。

また、活動の性格上、予算が全くないため関係者の手弁当で行っている。したがって、今回のような助成をいただいたことで、こうした形に残るような活動が出来た。当初は小学校の各校に1個ずつ配布する予定であったが、学校に配布するとなると様々な制約・条件があり、簡単に全校配布にならない状況があった。また、小学校に配布してどのくらい教育的効果があるのか(実際に使ってもらえるかどうか)についても、不透明な部分が少なからずあったため、結果としてより多くの教育的効果の期待できる児童館等に配布することとなった。

◆今後の課題・発展の方向性

参加メンバーをどのようにして集めていくかは今後も大きな課題であるが、高校生が学校をこえて環境問題を自主的に学ぶ活動は、教育的に見ても大きな意義があるものと思われるので、課題を整理しながら可能な限り活動を続けていきたいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

2010年度の活動について、当初は講義や見学を主体とした活動を考えていたが、貴財団から助成をいただいたことで、高校生の気持ちの中で学習活動を形に残したいという思いが強くなり、話し合いを進めていった結果、エコカルタの作成というユニークな活動になった。前記のような学校外での活動ならではの困難さもあったが、完成した時の高校生の充実感あふれる笑顔を見ると、活動をこのような形にできて大変良かったと思っている。